



イチゴの受粉に 在来種クロマルハナバチ

ナチュポール[®]ブラック

-  1箱(群)で2反(2,000㎡)まで受粉可能
-  少数精鋭の働き蜂だけでなくオス蜂も受粉をお手伝い
-  性質は温和
-  曇天や雨天でも活動。低温期にミツバチと併用も可能
-  蜂の回収をしやすい巣箱で過訪花時の出巢制限も可能
-  小面積のハウスでは数棟のローテーション利用も可能
-  ご注文日から翌々日にはお手元に納入(日・月曜日等を除く)
-  外来生物法等への許可申請の必要なし

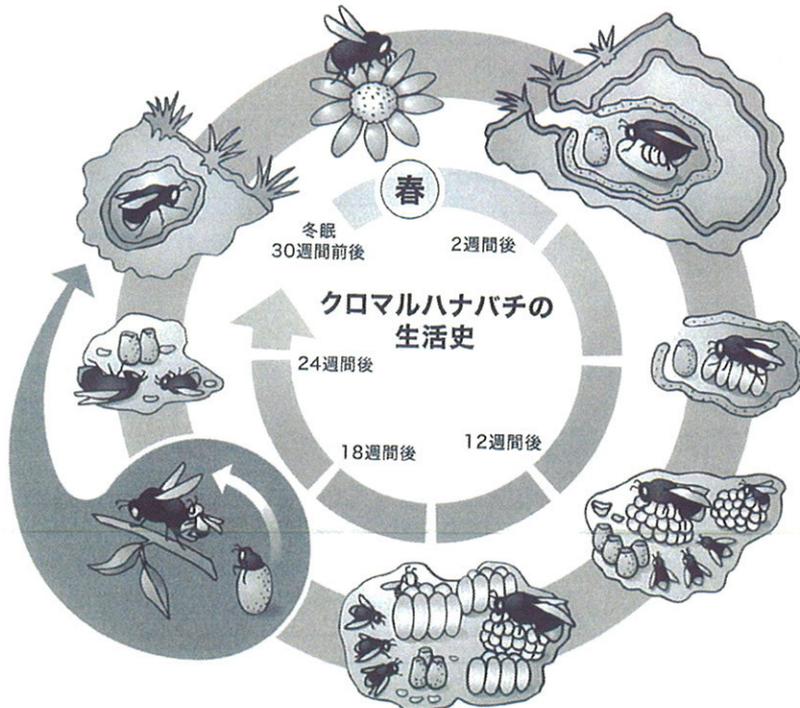


ミツバチ不足の緊急対応にも!

在来種クロマルハナバチの利用方法



クロマルハナバチの特徴

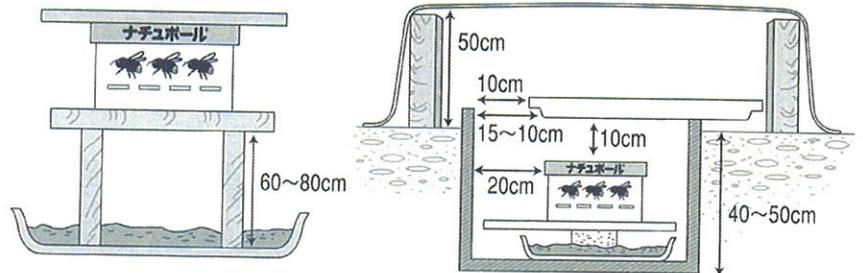


クロマルハナバチはミツバチと異なり、自然界では春から秋までの約6ヶ月間しか巣作り(営巣)を行いません。お手元に届く巣は工場の中で約3ヶ月間育てたものですので、イチゴの圃場導入後の寿命は約2、3ヶ月程度です。また、早期にオス(♂)が生れてくることがありますが、巣の寿命が近いことを示す目安にはなりません。オスが生れた後も働き蜂を生産することが多い種類です。なお、オスもイチゴの花の蜜を求めて訪花し、受粉の役に立ちます。クロマルハナバチは体が大きいため、幼虫が成長するために多くの花粉を必要とします。体の大きい働き蜂は1回に運ぶことができる花粉量も多く、トマトなどの花粉が少なく、蜜がない作物に比べイチゴとは非常に相性が良いと言えます。

巣箱の設置方法(例)

巣箱は、なるべく15~28℃程度に維持された、乾燥した場所を選んで設置するようにしてください。

※マルハナバチはミツバチに比べ低温下でも活動しますが、厳寒期には巣箱の上などに毛布などをかけるなどして巣の保温効果を高めてください。



イチゴでの利用のコツ

- ① 施設の換気部にはネットを展張するようにしてください。マルハナバチの逃亡防止につながり、受粉効果がアップします。また、大型鱗翅目害虫の侵入抑制にもなります。
- ② 導入初期は働き蜂の数が少ないため、ハウスの中で出会う個体数がミツバチに比べ少なく感じますが、施設内に2、3頭の働き蜂が花を訪れている姿が確認できれば問題ありません。
- ③ 農薬散布時には蜂を回収し、1日に乾燥花粉を小さじ1~2杯程度給餌してください。また殺虫剤等のマルハナバチへの影響については、ほとんどの剤がミツバチに準じます。

使用面積の目安	管理温度の目安
1,000㎡~2,000㎡	10℃~27℃

- ④ 働き蜂が花卉の落ちた花にしつこく訪れている様子(過訪花)が見られたら、次の花が開花してくるまで、蜂を回収し、出巢制限をしてください。過訪花は奇形果の発生につながります。蜂を巣箱に閉じ込めている期間は、1日に乾燥花粉を小さじ1~2杯程度給餌してください。
- ⑤ また、蜂を回収後、別のハウスへ移動することも可能です。1反のハウスであれば2棟程度を交互に導入するローテーション利用も可能です。

アリスライフサイエンス株式会社

〒104-6591 東京都中央区明石町8-1
TEL 03-3547-4415 FAX 03-3547-4695
<http://www.agrofrontier.com>